

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立高倉小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

ゆたかな心 たしかな学力 たかくらの子
 ・考える子ども
 ・助け合う子ども
 ・やりぬく子ども

今年度の指導の重点

・たくましく生きるための「基礎・基本」の定着を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。
 ・自然や人とのふれあいを深め、思いやりの心とコミュニケーションの力を育てる。
 ・「高倉の当たり前(ルールを守る。みんなと協力する。宿題をきちんとする。)」の徹底を通して心身ともに健やかで、行動力のある子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小6)
 ○国語Aについては、県平均と比べると正答率が高い。
 ○国語B、算数A、算数Bは県平均に届かない。
 ○国語Aにおいて、漢字の読み書き、ローマ字の正答率が高い。漢字の書き「親しい」:本校94.7%(県71.5%)。問題形式別正答率では「選択式」「短答式」は県平均以上である。
 ○国語A・Bともに「話すこと・聞くこと」「記述式」の問題に課題がある。
 ○算数A・Bともに「場面の適用」「割合」「理由を書く」に課題が見られる。
 ・2.1÷0.7を除数が整数になるように工夫して計算する。:本校47.4%(県72.1%)、4枚の三角定規でつくることができる:本校63.2%(県78.6%)である。
 県(中1)
 ○国語は「教科総合」「基礎」「活用」ともに年々県平均に近づき、本年度は県平均を2ポイント超えた。
 ○数学は「教科総合」「観点」ともに上昇傾向にあり、全ての項目で県平均より高い。
 ○社会・理科は「教科総合」は県平均を超え、前年度より大きく伸びた。
 ○標準スコアによる3年間の状況を見ると、4教科全てにおいて前年度より伸びが見られる。
 ○国語の観点「読む能力」が県平均に届かない。
 ○理科の観点「科学的な思考・表現」が県平均に届かない。

【学習状況調査の結果】

全国(小6)
 ○「将来の夢や目標をもっている」「地域の行事やボランティア活動などに参加したことがある」の割合が県平均よりかなり高い。
 ○「家庭学習の時間」はほぼ県平均であるが、「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の授業の予習をしている」「学習の目標(めあて、ねらい)を書いている」「授業の最後に学習内容の振り返り活動をしている」などが県平均よりも高い傾向にある。
 ○「テレビの視聴時間」はほぼ県平均であるが、「インターネットをしている時間」が県平均より高い。
 ○「読書時間」は県平均より低い。
 ○「自分の考えを説明したり、文章に書いたりする」「感想文や説明文を書く」の割合が県平均より低い。
 県(中1)
 ○あいさつ運動に取り組んでおり、「あいさつ」の項目は県平均よりやや高い。
 ○ゲームや携帯、スマホの時間が短くなってきた。しかし、携帯やスマホの使い方について家の人と約束したことを守っている人は昨年同様に少ない。
 ○「地域の行事に参加している」が県平均より高い。
 ○家や図書館での読書時間が前年度より高く、県平均よりかなり高くなっている。
 ○「家庭学習の方法を教えてもらっている」「学習した内容について家で自分なりに復習している」が県平均より低い傾向にある。

成果と課題

○朝のモジュール学習は子どもたちに定着し、集中して根気強く取り組む姿勢が身についてきた。
 ○全校的に学習規律が定着し落ち着いた学習に取り組む姿勢が整ってきている。
 ○「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童が昨年と比べると大幅に増えた。
 ○(全国テスト)では、国語Aの力が県平均、全国平均を大きく超えた。
 ○(県テスト)では、どの教科も少しずつ伸びてきている。今後、基礎基本の問題を定着させるとともに、その年の子どもたちの特徴を分析し、丁寧な指導の継続に努めていきたい。
 ○国語、算数に共通して「話すこと・聞くこと」「記述式の問題」に課題がある。B問題に慣れておく必要がある。
 ○「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすること」が正答率が低い傾向にある。
 ○予習・復習・自主学習に取り組めるよう保護者への声かけや学校での指導を続けていく。
 ○PTAの取り組みもあり、テレビ・メディアの時間は減少傾向にあるが、ゲームや携帯、スマホなどの使い方には課題がある。

課題に対応した改善方法

○校内で共通理解を深め、落ち着いた学習環境を継続させ、基礎基本の徹底を図る。
 ○学期末毎に学習規律について達成度を全職員で検証し、次学期の目標を立てることとした。本校の子どもたちの実態から、新たに「聞き方あいうえお」「話し方かきけこ」に取り組む。
 ○「自分の考えを書く」「自分の考えを説明する」「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞く」など自己表現の場を学校生活の中に設定し、日々の授業・校内研修・公開授業を大切に、教職員の授業力向上に努める。
 ○授業、日常の場で「振り返り」を大切に、モジュール学習では、全校視写の時間に国語の教科書を音読し、表記のきまりを確認しながら文写をしていくことに取り組む。
 ○毎週水曜日の放課後学習(のびのびタイム)が学年の目標に合わせて効果的に行われるように様々な環境づくりに努める。
 ○全教職員で児童理解に努め、引き続き「チーム」として高倉の子どもを育てていくの共通理解を確認し、児童会、委員会活動、学校行事を通して児童一人ひとりの達成感・満足感を大切に、どの学年でも自己肯定感が高まっていくように努める。
 ○地域や家庭との連携を大切に、積極的な情報発信(学級通信、学校だより、講演会、PTA家庭学習チャレンジシート)に努め、家庭学習(予習・復習・自主学習・読書)の充実を図る。
 ○朝モジュール・授業の予習と復習・家庭学習等で問題データベースの効果的な活用を図る。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

○校内研修学向上部会のテスト(学期始・学期末・九九定着)の検証結果を効果的に利用する。
 ○「学向上部会」「健康とこころの向上部会」で連携を取り合い、情報の共有に努め、日々の教育活動に生かしていく。
 ○「学向上部会」で毎学期、学習規律等の定着状況チェックを行う。
 ○児童への「生活アンケート」を毎学期実施して児童一人ひとりと面談を行い、学校で取り組める課題、家庭に協力を求める課題を明らかにする。
 ○「家庭学習チャレンジシート」の検証と情報発信。(中学校の定期テスト時期に合わせて)
 ○上記の結果を受けて取り組みの見直しを随時図っていく。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

○(全国学力テストについて)児童の理解力や表現力(特に読む力、書く力)が伸びるように指導し、国語・算数の平均正答率が全国平均を上回る。
 ○(県学力テストについて)国語、社会、数学、理科の「教科総合」「基礎」「活用」が県平均以上にする。
 ○「自分にはよいところがある。」「話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞く」と回答する児童・生徒の割合を県平均以上にする。
 ○児童・生徒に基礎基本の力が定着するように「朝モジュール」「放課後ののびのびタイム」「家庭学習」の工夫をし、前学年までの既習内容の復習と苦手な傾向の問題の復習、現学年の内容の復習をしっかりと行う。